

# 我が営林署の新規収入対策の取組状況について

藪原営林署・業務課 収獲係○中島 和美  
奈川森林事務所 古幡 勝利

## 要 旨

近年、国有林野事業の累積債務は増加傾向をたどっている。一方、林産物収入は森林の機能分類による木材生産林の減少等に伴い収獲箇所が減少すると共に、材質低下により漸減の傾向にある。このことから、新規収入は経営改善を推進する上で益々重要性を増してきている。

しかし、従前から行われている採取販売・イベント販売での新規収入は、職員の減少により年々厳しい状況になっていくことが予想されることから、当署の収入対策委員会はこの一年間職員の減少に対応できる新規収入の方法について取り組んできたのでその内容を発表する。

## はじめに

従来、当署の新規収入は、タラの芽・フキの採取販売、アカシ・小木工品・根株のイベント販売や堰堤に溜まった川砂利の販売等を主体に取り組んできた。

## 1 新規収入の状況

### (1) 過去の新規収入

過去の新規収入の状況は表-1のとおりであり、その主体を占める雑収入は平成7年度で表-2のとおりになっている。

表-1 過去の新規収入状況 (単位:万円)

収入の項目	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	計(比率%)
雑収入	120	108	95	129	121	573 (20)
土石販売収入	33	1,877	46	1	306	2,263 (80)
その他収入	3	3	1	1	1	9 (0)
計	133	1,976	179	89	465	2,842 (100)

表-2 平成7年度雑収入の内訳

区 分	販売人員	制作人員	収入額(比率%)	1人当たりの概
奈良井宿場祭	15	25	533,400 (44)	13,335
木祖村文化祭	10	18	317,400 (26)	11,321
その他			356,250 (30)	
計			1,207,050	

当署の新規収入の特徴は土石販売収入及び「奈良井宿場祭」と「木祖村文化祭」のイベント収入・フキの採取販売がほとんどを占めておりイベント収入は地の利を得たものであり今年度も取り組むことが必要であること。

フキの採取販売は要員不足から実施が困難な状況であり、取り止めても他に影響が少ないこと等改善点が提起された。

## 2 イベント販売・フキの採取販売の特徴

### (1) イベント販売の特徴

- ア 住民と直接対話しながら販売できることから良好な関係が生まれやすい。
- イ 住民や観光客に林業のPR等ができる。
- ウ 村の行事と共催する場合が多く村のイベントを盛り上げる効果がある。
- エ 行事の準備や実行に人手が多くかかる。
- オ 根株のイベント販売は販売物品の収集等準備が大変であるが短期間に大きな収入があがる。

### (2) フキの採取販売の特徴

- ア 国有林のフキは、柔らかく風味が強いことから人気があり無人販売でも直ぐ売り切れる。
- イ 職員が出張等仕事の合い間に採取してきて販売する。
- ウ 収益は大きいですが、人手も多くかかる。

## 3 収入対策委員会の取組内容

少人数で対応できる新規収入の方法はどんなものがあるかであり、今年度の取組みは「フキ」の入園料方式、「タラの芽」「雑茸」の区域販売、「採石」の販売についてであった。

## 4 省力化に向けて取り組んだ具体的方法

### (1) 「フキ」の入園料方式

#### ア 方法

- (7) 1カ所の林道ゲートを解放した。
- (イ) 「フキ」の採取者からの入園料を徴収し国有林の林道端に自生している「フキ」の採取を許可した。
- (ウ) 他の入林者と区別するためフキ採取者に通行証と領収証を発行した。

#### イ PR方法

有線放送で村内に入園方法や採取方法をPRした。

ウ 実行結果は表-3のとおりとなった。

#### エ 今後に向けての反省

- (7) 入園方法や採取方法のPRを拡大し入園者を増やす。
- (イ) 署・森林事務所で入園料を徴収することにより省力化が可能である。

### (2) 「タラの芽」「雑茸」の区域販売

#### ア 方法

(7) タラの芽はカモシカ防護柵で、雑茸は大きな沢等区切られた区域を単位とした。

(イ) 一定の採取量を定めるが区域販売を原則とすることにした。

(ウ) 林道ゲートの鍵は責任者に管理させることにした。

#### イ PR方法

(7) 林政懇談会を通じて村・区等へ説明した。

表-3 フキの販売実績

年 度	販売人員	対応人員	1人当りの収益
3年度	200,000	30	6,667
4年度	200,000	30	6,667
5年度	215,000	28	7,679
6年度	165,000	28	6,620
7年度	49,000	25	8,167

(4) 村おこし農家組合・観光協会・保養センター、財産区等に売り込んだ。

ウ 実行結果は表-4のとおりとなった。

エ 今後に向けての反省

一人当たりの効率は非常に良いものになった。また、区民からも好評を得た。

(3) 「採石」の販売

近年、木曾・松本・塩尻地方の建設用骨材は川砂利が枯渇状態にあること。

建設用骨材は重量物であり、遠距離からの物流は不可能であること等から骨材不足が深刻で、社会的問題化しつつある。

碎石砂利の開発には、周辺の問題をクリアする必要があり、業界からは民有地

に適地が無いことを理由に、国有林内の開発について要請が寄せられている。

ア 開発には、自然環境、交通量、

水質汚濁等、生活環境に及ぼす影響が大きいことから、実行に当たっては慎重に進める必要があり営林署を取り巻く関係を図化する図-1のとおりになる。

イ 地元の理解を得るためには対境関係の中心になる営林署の働き掛けが重要であり、地元や関係市町村住民の意思を尊重したものでなければならない。

署としては、営林局と連携を取りながら、地元議会・国有林対策委員会・村理事者・区の代表者に林政懇談会、現地案内等を通じて働きかけた。

ウ その結果、本事案実行に対する問題点が次の2点に絞り込まれてきた。

(7) 塩尻市の上水道の水源地対策

(4) 国道までの搬出路のうち一般車道になっている桜沢林道の交通量対策

エ 地元議会はこの開発に理解を示し、増加する交通量対策として、桜沢併用林道の県道昇格案が提起され、松本建設事務所や塩尻市議会に働き掛けを行った。

オ 署の取組み方針は

表-4 タラの芽・雑茸の販売実績

年 度	収入金額	対応人員	1人当たりの値
3年度	0	0	
4年度	0	0	
5年度	0	0	
6年度	0	0	
7年度	207,000	5	41,400

表-5 開発計画の概要

位 置	楢川村賛川国有林78・79林班	
区 域 面 積	6.9ha	
計 画 標 高	1,400~1,550m	
推 定 埋 蔵 量	1,851千m <sup>3</sup>	
採 取 予 定 料	1,388千m <sup>3</sup>	
年 間 生 産 量	120千m <sup>3</sup>	
採 取 期 間	12.4年	
林 地	機能区分	木材生産林
	国土保全	普通林地
	林 種	天然林保残帯
現 況	樹 種	カラマツ、コメツガほか
	基 岩	古生砂粘岩
	林地傾斜	中~急

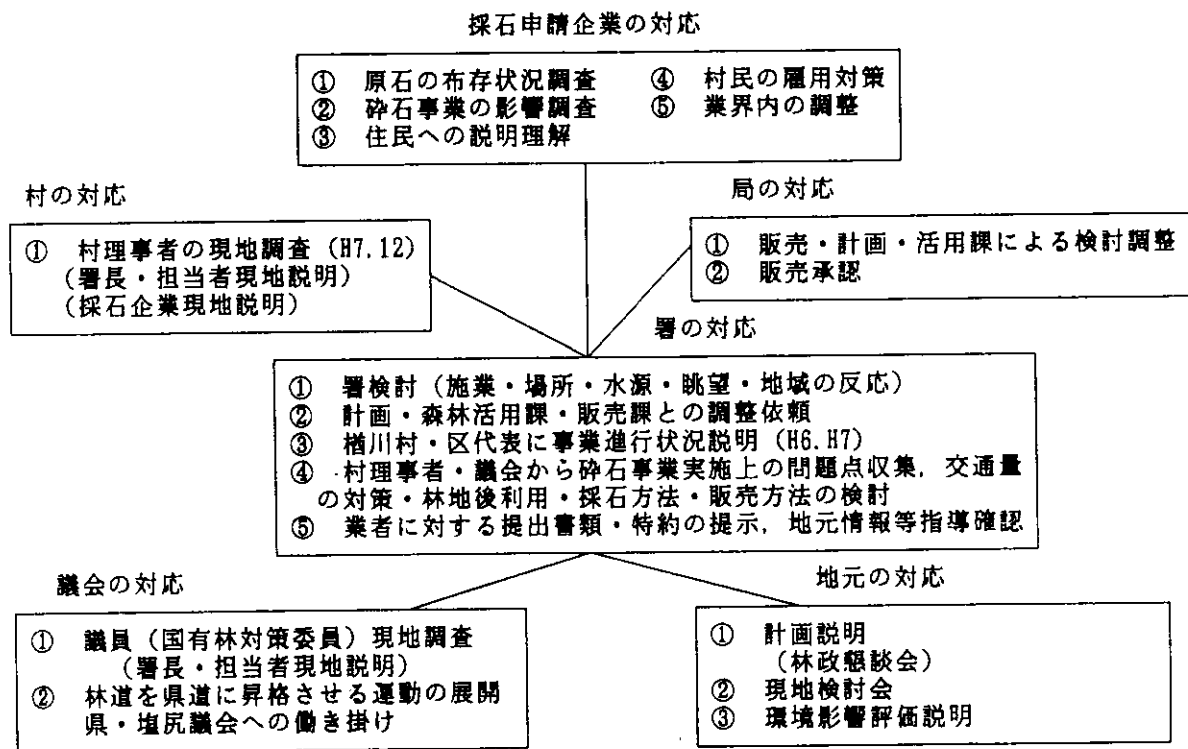


図-1 土石販売における市町村等への対応

おわりに

新規収入の確保で大切なことは、その署に合った宝の山の発掘を地元の要請を踏まえ、一体となって行う必要がある。国有林に対するさまざまな要請に応えながら収入確保に結び付けて行く方法が大切であると考える。